東洋大学図書館ニュース

KOΣMOΣ

Vol. 8, No. 4 (No.25) 1974. 4. 30

特集・私のすすめる一冊の本　2〜5
図書館会議要約　5
投書箱から　7
指定図書制度について　7
蔵書目録第一巻発行にあたって　8

私の若い日の読書

学長　堀　　秀　彦

あの青春時代，一口にそれは雑然としていた。右往左往していた。人生の目標もなく，ただ，あっちをのぞき，こっちをかじり，私は，ヨタヨタと生きて来た。私の書斎には，いま雑書が並んでいる。宗教，哲学，小説，その他いろんなものが無秩序に並んでいる。私はいまそれらの書棚を見ながら，私が青春時代の私をいまも，なお引きずり歩いているような気がする。人間なんてそうそう変るものではないのだ。私は変ったようで，変っていない。そしていまにしてつくづく思うことは，なにかの途一すじに本をよみ，勉強し，考えていたらという後悔だ。

私の人生は雑然としていた。そしていまもなお雑然としている。一体これからさき死ぬまで私はどこをまだうろつくのであろうか。私は最近いろんな古典を多くよんでいる。そしてそのどれにもこれにも感心する。私は生活の心配がなくて，もう少し落着いて，これからさきいろんな本をよめたらと思う。

青春時代，私にとって，読書はひとつの虚栄みたいなものだった。「こういう本をよんだ。とても気に入った」「ちっとも面白くなかった。第一，こんな点はまちがいでなかろうか」——そんなことを友達に，わけても，恋する彼女に話すことがとてもよろこびだった。言いかえれば，私自身のためによんだというより，俺はいまこんな本をよんだと，親しい友達に吹聴したかったのかも知れない。

そのような読書態度もいまとなって見ればかぎりなくなつかしい。なぜなら，その読書には，一種の心のハリがあったからだ。いまはただ自分の心をなぐさめ，自分の心を遊ばせるためにしか本をよまない。それは正しい本のよみ方かも知れない。けれども，一冊の感動的な本をよんで，それを彼女や友達に語ってきかせるというあの無類のよろこび，——あれは青春だけが約束してくれるよろこびではないのだろうか。

（堀秀彦著「読書のよろこび」<雪華社刊・昭和45年>より抜粋）

特集 私のすすめる一冊の本

はじめに 学生のみなさん，入学，進級おめでとう。今年も，新学期を迎え，図書選択委員の諸先生にお願いして，「私のすすめる一冊の本」の特集をいたしました。何を読むべきか「一冊の本」に限定することは困難ですが，人生の折り折りにふれて，誰にでも忘れ難い一冊の本があります。特集が，そのような「一冊の本」との出合いとなってくれれば幸いです。（注・掲載にあたっては，執筆された諸先生の氏名のアルファベット順に，投稿は最後に編集いたしました。）

大隈三好著
「伊豆七島流人史」雄山閣

荒井貢次郎
（法学部教授）

―椿の花咲く島と流人と―美しい大自然と豊かな詩情にあふれる楽園・伊豆の島じまに情緒をもとめて，今日も船は，コバルトの海に白波をけって進む。この旅に青年男女はさそわれていく。これらの島じまには，暗い人生を送った人びともいたのだ。その名は流人・流刑者という。「流刑って，なによ。」「そいつぁ，遠島処分といってなあ，刑罰の一っでよぉ，帰えるに帰えれない，海の彼方の島に送られることなのょ。」近世は，遠島処分（島流し）になると，闕所（財産没収）がつく。遠島者には，冷酷な待遇しかまちかまえていない。現存する新島流人帳による流人の数は，1,333人だ。そうした人たちの墓が流人墓地に残っている。流人は政治犯・宗教犯・破れん恥犯もいた。こうした話を語ってくれる本が出版された。その本は作家・大隈三好「伊豆七島流人史」（雄山閣歴史選書）だ。島旅の前に一読をすすめる。（発注中）

吉川幸次郎・三好達治著
新唐詩選
岩波新書，1952年

船木勝馬
（文学部教授）

中国の文学は，漢の文・唐の詩・宋の詞・元の曲に代表されるといわれるが，そのなかで日本人の心情を今もなお強くゆさぶりつづけているのが唐詩である。唐詩は文学の一形式であるが，そこには哲学があり，そのときどきの歴史が秘められている。「国破山河在」は，八年にわたる安史の乱のなかからほとばしりでた憂愁の詩人杜甫の嘆きであるが，情熱の詩人李白も愛情の詩人白居易も唐代を代表する人である。かれらの詩を介してかれらの思想を，さらにその社会的背景をうかがうことができよう。

古来<唐詩選>の注釈は多いが，中国文学の泰斗と日本の代表的詩人とが珠玉の詩篇を抽出して学問的に分析し，現代的にとらえたこの評釈は，万人の琴線に触れるものがあると思う。すでに高校で親しんだものもあるだろうが，ここでじっくりとみずからかみしめ，みずから鑑賞し，みずから評価してみてはいかがであろう。

ことしも劉廷芝の『代悲白頭翁』の「年年歳歳花相似，歳歳年年人不同」という句を思い浮かべる大学の歳時記＝入学式が近い。新しい学年の出発にあたり，大学に何を求めるのか，みずからに問い，明確な答をみずから用意して，充実した青春の日日を送られることを新入生にも在学生にも期待したい。なお吉川幸次郎・桑原武夫著<新唐詩選続編>のあることを付記しておく。（甲寅・季春）（921.4：YK：1ロ）

清水幾太郎著
「社会心理学」岩波書店

広瀬英彦
（社会学部助教授）

この本は昭和26年に出た。いらい20余年の間に，社会状況は大きく変わり，本書も一種の「古典」となった感がある。しかし，ここに提示されている問題は，いぜんとして現代社会の根底に横たわっている。特に，現代社会におけるイデーと現実との背離に対する指摘は，するどいものがある。さらに本書は，わが国におけるマスコミ研究の出発点となった。以後今日までの研究は，本書の描いたマスコミのイメージを克服する過程であったと言ってよい。現代社会におけるマスコミの機能を考えてみようと思う者は，一度はこの本を読んでほしい。一昨年に用語用字を現代風に直した改版が出たのも，本書がなお生きてい

ることを示している。(361.5：SI：3)

マルチン・ブーバー著
野口啓祐訳
「孤独と愛」創文社，1972

考橋正一
(社会学部教授)

ヒューマニズムとか人類愛だとか人間尊重だとかが，好んで語られ，快く受取られる。また，それについての本もたくさん出版されている。しかし，これらの講義，対話や著作に耳を傾け，それらを読んでみて，なにかしら決定的に重要なものが脱落しているので，そこに白々しさと空しさだけが残る場合が多い。そのさい，決定的に重要なものの脱落とは，(1)人間を歴史的，社会的に捉えること，(2)人間的な生の「全現実」を，そのありのままに根源的に捉えること――への二重の忘却である。前者の要求に答えることができるためにはマルクスの『経済学・哲学草稿』から初めるのがよいが，後者のためにはブーバーの『孤独と愛』をすすめたい。そこには誰にも姿をみせないものとの「出会い」を媒介とする人間の全現実的な存在が深い知恵をもって語られる。(199：BM：2)

日本経済新聞社編
インフレ論争　昭和48年

小苅米清弘
(経済学部助教授)

最近の我国における消費者物価，卸売物価の上昇はきわめて急速である。両指数がこの一年に20%を優に越える上昇を示したのは，終戦直後の経済混乱期をのぞいてない。かかるインフレーションが資源の適正配分，所得の平等分配を阻害し，負の国民福祉を増進せしめることは明白である。いまや現代国家の最大の課題がインフレの収束にあるといって過言ではない。その意味で我々現代社会にすむ者はインフレ問題に正しい理解をもつ必要があり，同時にそれは現代経済の解明につながる重要な知的用具でもある。

ところがインフレという現象は実のところ一種の化物である。いかなる要因がどのように他の要因と結合してインフレ現象を引起しているのか，その因果関係を明らかにすることは決して容易ではない。したがって肝要なことは，まずこれまで展開され蓄積されてきたインフレ諸仮説の吟味である。

そこでここに本書を紹介したのは，その書物が経済学の初学者あるいはインフレに強い関心をもつ学生諸君に比較的容易にインフレ問題の核心を教えてくれるからである。書名に示された「論争」というのは，ここ数年来の物価高騰を，「特殊な商品の，特殊な事情による上昇」かそれとも「一般的な商品の，一般的理由による上昇」かをめぐる論争である。第1章においては，上述両理論が開陳され，第2章において両説の主張者が討議をかわし，第3章では論争のあらたな参加者による所説，論争当事者の反論，再反論が展開され，第4章においては論争の当事者に第3者の参加をえて，座談会が試みられている。最終の第5章において読者のために戦後のインフレ論争が簡潔に顧みられている。

論争を通じて少数派対多数派という陣営構成こそ明白となったが，論争そのものの決着はいまだついていない。つきつめていくと，論争の相違は両論におけるインフレの事実認識と物価観の相違に帰着しよう。いずれにせよ本書によって論争の展開をたどるうち，自ずと現代インフレ問題の広さと深さが理解出来よう。本書を熟読玩味して現代インフレが特殊な商品の特殊な事情による上昇なのか否かを，諸君自からの思考のもとに判断されることを望みたい。(発注中)

カール・マルクス著
長谷部文雄訳
「資　本　論」青木文庫

松田弘三
(経営学部教授)

現代資本主義は独占資本主義であってマルクスが分析した自由競争にもとづく産業資本主義とは異なるが，その基礎にマルクスが暴露した経済法則が貫徹していると思われる。大学在学四年間のうちに『資本論』を通読しておくことは，資本主義を視る眼を確立することであり，ぜひとも必要であると考える。とくに経済学部・経営学部・法学部・社会学部の学生諸君にとっては必読の書である。文学部・工学部の諸君も読まれることが望ましい。(331.34：KM：8)

ドラッカー著　野田一夫訳
「現代の経営」
自由国民社，昭和31年

斉藤弘行
(経営学部教授)

経営学に限らず，他の学問分野にある多くの人が一体企業経営はどういうものかを問わずにはいられないときに，ドラッカーの言葉に耳を傾けるのがよ

いであろう。われわれは次々と現われる彼の考えに感心すると同時に，またある程度の疑問をもつかもしれない。例えば，企業は最大の利益を追求するというよりは，顧客を創造し，永久に活動し続けることがかえって社会のためになるのだとする考えは，利益ということにこりかたまった企業思考を転換するものといえる。だがそこにはかなりの楽観主義も入りこんでいることも否定できない。その点を考慮して読むと，現代のマネジメントはどういうことなのかが自然と理解できるようになる。ただし，経営学の体系はどうかというような問題をここから習びたいむきには物足りないのであって，あくまでアメリカ経営学の一つの方向を知る予備段階として意義がある。(発注中)

加藤　辿著
「都市が滅ぼした川」
中央公論社，昭和48年
扇田彦一
(工学部教授)

水質汚染は，大気汚染とともに，公害事象の双璧をなすものであるが，大都市周辺の河川においてとくに著しい。公共下水道の普及度が極端に低いわが国では，法的排出規制の緩いこともあって，工場廃水や家庭汚水がほとんど未処理のまま流入している。多摩川はその典型的な例であって，上水道水源河川としてはわが国最悪級に属する。この本の著者は，水の専門家ではないが，NHK科学産業部員として，自身の取材による豊富な資料を基にして，多摩川の質・量両面からの頻死の現状をえぐり，この川に対する東京の水源政策の歴史に疑問をいだき，最後に川という名の自然は，人間の利用のためにあるのではないと考える。三百年来，江戸―東京の発展に貢献してきた多摩川が，いまその東京のために滅ぼされようとしている，と嘆くのである。(整理中)

出隆自伝（出隆著作集7．8巻）勁草書房
暉峻凌三
(文学部教授)

著者出隆（いでたかし）氏は西洋古代哲学史家。明治25年（1892）の生まれですから学生諸君にとってはお祖父さん，ぼくらの年輩の教員にとってはお父さんぐらいに当たるかたです。東洋大学にも大正から昭和にかけてかなり永い期間在籍され出講されたことがあります。

わが国には自伝文学はそうおおく書かれていないのではないでしょうか。その意味でまず珍重すべきものです。この自伝の扱うところは明治末年から第二次大戦終結までの激動の数十年ですが，別だんかしこまって読む本ではありません。この自伝の特長は，栄誉に達したひとの教誨的口調でなく，老年に到ってなお失われていない青春模索のこころでもって書かれている点にある，と思えるからです。著者と同い年の広津和郎の自伝『年月のあしおと』（正・続二冊）と読み較べられるのも，よろしいでしょう。　(121.9：IT：3)

上田誠也著
「新しい地球観」
岩波新書，1971年
上野直子
(文学部教授)

地震の話題に伴い，マントル対流とかプレートテクトニクスという言葉が新聞に見られるようになった。この本には，現在の「動く」地球観がどのようにして生まれたかが地球物理学の立場から初心者にもわかるように書かれている。

新しい地球観への出発はウエゲナーの大陸移動説によった。いったんは葬られたこの説も古地磁気学の研究により50年代に復活した。一方で海底の地形，地磁気異常，熱流量などがわかって来た。これらの謎をとくため，かつてホームズが説えたマントル対流の考えを見なおし復活したとでもいうべき海洋底拡大説が出され，さらに海洋底は厚い板が動くように移動するというプレートテクトニクスへと発展した。このような考えでは，日本列島は太平洋プレートの端でマントルの流れの沈み込み口にあたり，その影響で地震や火山活動が起るのではないかとされている。(448：US)

無機応用比色分析
編集委員会編
「無機応用比色分析」
共立出版
斉加実彦
(工学部教授)

公害が環境汚染が大きく問題化している今日，ややもすると化学はその元兇のように見られがちであるが，本来化学そのものは，文明を建設するもので，そうした公害や環境汚染を除去するための技術の提供をも使命とするものである。ことに分析化学の部門はその第一線にあるといってよかろう。

それはともかく，現在の分析技術の水準を紹介すると，試料中の100万分の1ミリグラムの微量

分析，1000分の1ミリメートル平方の極小範囲の分析，10万分の1ミリメートルのごく薄い表面層部の分析，元素の結合状態の分析，1分以内での迅速分析，非破壊分析，全自動分析など高度な技術があって，月面での無人分析さえ可能な段階に達している。

ところで，産業界でこそこうした高度な技術が日常的に駆使されているが，その技術者の養成を目的とするはずの大学ではどうかというと，実験装置の高価や授業時間の不足のため，極く一部の大学を除いて，大部分の学生はそれに無知のまま社会へ送り出される現状である。教育の場と産業界先端との水準の差は誠に大きい。これが教育にたずさわるものの共通した悩みとなっている。

さて，ここにとりあげた『無機応用比色分析』の書は上述のような最新の高級分析方法に関するものではなく，目的成分を試薬で呈色させ，その色相や色濃度によって分析する比色分析方法を，おもにあつかったものである。これは古くから行われて来た分析方法であるが，装置の低廉の故もあって，小企業にも普及し，理・工・医・薬・農など広範囲の部門にわたって広く活用されている。しかも，呈色試薬や呈色法は年々進歩し，微量分析法としての信頼度も最近では著しく高まり，さらに将来の発展が期待される状態にある。比色分析法をあつかった専門書としては例えば『スネル著の比色分析法』が古典的大著として定評があるが，その後の斯界の日進月歩著しく，最新の大著書の出現が待望されること久しかった。本書はまさにそれに応えるものである。全6冊，各冊約500ページで，無機元素ごとに章別し，それぞれ分離濃縮法，標準溶液調製法についで各種試料成分分析例を記載し，吸光光度法，炎光法，原子吸光法についても記述されている。問題点としては，執筆から刊行までに要した時間のため記述に数年のおくれがあること，分析方法が羅列主義で選別されていないことなどがあげられる。しかし引用文献がたくさん紹介されているので，利用者はこれによってその欠を補うことができよう。本書は内容豊富かつ平易，比色分析法に関しては現在のところまず第一に本書をひもとくべきだといえる。(整理中)　　—投稿—

図書館諸会議要約（2～3月）

図書館合同委員会（於図書館会議室）

日時　昭和49年2月7日(木)11時—16時

議題　①昭和49年度図書予算の件

②その他

（議事要約）予定した議題に対し，昭和48年度図書費及び図書館諸活動全般に関する報告を行う。48年度図書費は暫定予算で執行し，補正図書費を要求，結果は総額で130万（助成金を除く）であった。49年度図書費要求は大学計上予算の5％を目標に経理に提出し，各学部学科の要求を集計し，こんごの予算交渉の資料とする。

図書運営委員会（於図書館会議室）

日時　昭和49年3月12日(火)12時—13時

議題　①昭和49年度図書館予算の件

②その他

（議事要約）各学部の要求額集計は約1億2千4百万円，図書の価格，専任教員の比率，学部学科間の要求額の調正等，図書費の算定基礎をめぐって意見が出された。図書費要求は結論として，各学部学科の要求額を要求し，図書館の図書費を合計し，総額で約1億5千万で要求額を決定。

図書運営委員会（於図書館会議室）懇談会

日時　昭和49年3月23日(土)11時—13時

議題　①昭和49年度図書費の件

②その他

（議事要約）49年度図書費の内示（3月19日）5千8百万円に対し，再交渉，7百万円が増額され，6千5百万円を49年度図書費とすることが決定，意見として，購入を早めること，補正図書費を要求することの意見が出された。

図書選択委員会（於図書館会議室）

日時　昭和49年2月27日(水)12時—13時

議題　①図書の選定（共通図書費補正分）

②その他

（議事要約）下記リストの通り決定，総額で約130万6千円。

国学集要　初偏，二偏，三偏，46冊（文—中哲）

中国近代史料叢刊　66—78集（文—史学科）

Beiträge zur Geschichte der Deutschen Arbeiterbewegung. Jr. 1-12 (1959—1970) (経)

Montana Business Quarterly. Vols. 1-11 (lack : 4nos) (1963—1973) (営)

国語学資料　14冊　(短大—日文)

日本郡誌史料集成 (明治文献) (図)

Die Gesellschaft. Sammlung sozialpsychologisher Monogrsphien. Hrsg. von M. Buber 40 Bde. (1905—12) Frankfurt a. M. (図—欠本補充)

参考図書の解題

—法律学関係—

①法律学辞典　全5巻　岩波書店 (320.3 : S)

主に Stier-somlo : Hand wörterbuch der Rechtswissenschaft, 7 Bd., 1926—1931. に拠っている。

編集方針としては昭和9年までの日本法律学を中心として，外国法に関する項目は日本法律学との関連で必要なものに限り収録されている。又，項目数は大項目主義をとっている関係上，極力必要なものに限られている。

例えば法律哲学，国際私法，日本法制史，ローマ法等は多くの項目に分割しないで各一項目として取扱われている。参考文献はその項目に直接関係する日本語の論文，単行本のみをとりあげているが，有名な外国語の文献は出来るだけ併記するという配慮が生まれている。

又，第5巻が総索引として独立し，総目次，法域別体系項目表，事項索引，条文索引，外国語索引の5部にわかれている。

②全訂法学辞典　日本評論社 (320.3 : SH)

新法学辞典 (1937年)，法学辞典 (1951年)，新訂法学辞典 (1956年) を集大成する形で編集されたのが本書である。変動の激しい現代社会に対応される意図をもって，法律だけでなく，政治・経済・外交面の事項をも多く採用するとともに項目についても小項目主義を貫くことによって1万数千に及ぶ事項を簡潔に説明し，理解させようとする立場に立っている。本辞典の特色は個々の解説に当って，項目相互間の比較・参照を中心に項目間の関連性を明らかにするよう配慮されている点であると考えられる。

—工学部関係—

①情報数学ハンドブック　森北出版

この本は O nekotryí Voprosakh Sovremennoí Matematiki i Kibernetiki. (『現代数学とサイバネティクスの諸問題について』1965) の翻訳である。サイバネティクスとは，人間と機械における制御と通信の理論および技術を研究する学問であり，数学の中でも新しい学問分野である。又この本を通読することによって情報と関連のある数学的話題には一応の理解が得られるようである。ほかに見のがせない点として，情報の最も一般的な表現手段である言語を情報理論とのかかわりにおいてとりあげていることがあげられる。又索引と露英和の用語対照がついているので，情報数学に興味ある人の〝読む事典〟としても適当と思われる。(410.36 : SS)

②情報工学ハンドブック　森北出版

情報工学とは，情報処理ならびにその伝送の各段階で必要とされる機械の設計，製作および運用に関する諸問題を取り扱う学問であるが，その範囲は広く，出版物も多い，このハンドブックは1冊で情報工学の全貌がわかるように編集されている。

内容としては，七大項目がありその下に中項目次に小項目に分れている。大項目だけ紹介してみると，「信号理論」「情報理論」「符号理論」「論理代数」「オートマトン理論」「学習システム理論」「OR理論」である。その他付録として，情報工学に関するJIS規格の一覧表，その他図表，索引は英文と和文の両方がある。このような点で広い層の人が利用できる本であると思う。

(549.92 : SH—2)

投書箱から

一刻もはやい開館を！

経営法学科・3年生

『個人的なお願いで申し訳ありませんが，聞くだけは聞いて下さい。今年もロック・アウトになり，大学が閉鎖され，図書館へも入れなくなりました。私はもう4年生になります。6月には上級試験，7月に国税専門官就職試験，8月税理士試験等々があり，勉強できるのも今年だけだと思っています。他の4年生になる学生も同じ気持ではないでしょうか？　勉強はどこででもできると云われればそれまでですが，図書館だけは閉鎖しないで下さい。約2万人いる学生の内の，ほんの少数の学生のために，勉強の場である図書館までもが閉鎖されたのは残念です。一刻も早く，図書館だけは開けて下さい。お願いします。』（3月4日付郵便による投書）

（係から）「図書館だけでも利用させてほしい」という要望は，この投書者だけでなく，電話などでも数多く寄せられました。先生方のなかにも図書館だけでも利用させたらという意見もありました。私どもも館長を先頭に，この要望，意見を受入れるために，いろいろと検討しながら，各方面と話し合う努力をいたしましたが，ロック・アウトの壁はあつく，ついに実質的な開館は，ロック・アウト解除と同時ということになってしまいました。

本図書館も大学の機構の一部であり，独立して存在しているわけではありません。いわんや今回のようなロック・アウトという異常事態の中で，図書館だけを機能させるとなると，いろんな問題が横たわっており，これが先にのべたあついロック・アウトの壁です。例えば図書館職員が安心して執務できるという保障や施設設備（保存資料を含む）の安全保障などは開館に当って，まず基本的な条件になってきます。今回もこの点について，各部門と話し合ったのですが，解決をみるにいたりませんでした。しかし大学院生（博士課程）の場合は，指導教授が保証人となって，図書館を利用する目的での入構が，ロック・アウト半葉で認められました。

ロック・アウト中のある大学では，利用者のなかから，図書館を絶対に闘争の渦中に巻き込ませないという組織ができて，その組織と大学側との話し合いで開館し，事故もなくすごした例があります。しかしこれは例外中の例外でしょう。

いづれにしても，残念ですが，現状では図書館だけ，その機能を果すということは，非常に困難なことです。ご了承ください。

指定図書制度について

本学図書館では，学生諸君の学習，研究活動のより一層の充実をはかることを目的として指定図書制度を設置しております。指定図書制度とは，教員が講義科目に関連する図書を指定し，それらの図書を図書館にそなえることをいいます。本学図書館で実施している指定図書の範囲は次のとおりです。一つは，講義に直接関連する図書です。これは，教員が受講する学生諸君に必読を示唆する図書にあたり，図書館では，多数の利用者を予想して複本を用意しております。もう一つは，講義科目に直接ではないが，一定の関連のある図書です。これは必読を示唆しないが，その講義内容の理解をより深めるのに必要な図書にあたります。以上のように指定図書は，講義に関連する図書という意味で受講する学生にとって極めて重要な意味をもちますが，それだけでなく，大学生として，一読の価値のある，いわば基本図書の性格をももっています。図書館を利用する際は，一般図書の利用と共に指定図書を大いに利用するようおすすめします。今年度は85名（173科目）の教員が指定図書を設定しております。なお，指定図書は，その科目を受講していない学生も利用できます。

指定図書利用要領	
設置場所	図書館2階開架書庫内
貸出期間	1週間（ただし継続貸出はみとめない）
注	一般図書の貸出期間も1週間ですが，希望によって1回の継続をみとめております。

くわしくは，閲覧係までおたずねください。

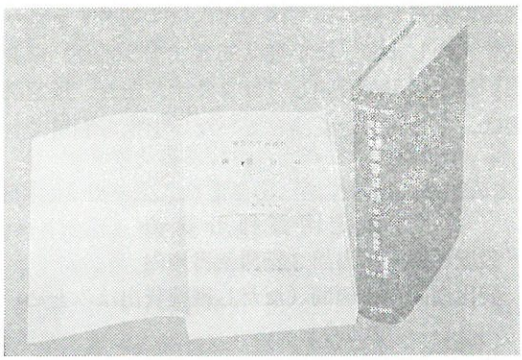
（係）

東洋大学図書館蔵書目録第一巻の発刊にあたって

整理課長　高　橋　誉　文

本学図書館が永い間念願していた図書館の蔵書目録が大学当局の理解と関係者のご協力により，ようやく第１巻の刊行の運びとなりました。この目録は作業の関係上，昭和47年３月末日に，日本十進分類法に拠って整理した図書を集録したもので，20数年にわたり作られてきましたカード目録を典拠として起稿したものです。したがって，あるものはカードが不鮮明なため，現物との照合によって補訂を加える必要が生じたり，そのカードも歴史的変遷をとげており，それらの統一の問題，「内容」注記をどの範囲まで掲出するか，また多くの漢籍を収録するための活字の問題など，私どもが苦労した点でした。しかしここに第一巻を完成させていただいたことは光栄このうえありません。近々この目録を学内外の関係機関に配布させていただき，皆さんの資料検索の一助になればと念願いたしております。と同時にお気付きの点がありましたら，ご指摘いただきよりよい目録にしていきたいと考えております。このあと和漢書篇２巻，洋書篇２巻，索引篇巻を継続して刊行していく予定です。

刊行にあたって，ご指導，ご鞭撻を賜わりました方々に，図書館職員一同に代り，深甚なる謝意を表します。



日　　誌（2月～4月）

2月12日　白山連絡会
14日　国立国会図書館長と大学図書館実務担当者と懇談会（於国会図書館講堂，世良課長出席）――国会図書館と大学図書館との連携協力の実態について――
分館運営委員会
19日　分館予算要求提出
21日　蔵書照合調査のため休館に入る。（分館）
25日　分館連絡会
27日　図書選択委員会
3月7日　私立大学図書館東地区部会（於慶応大学研究教育情報センター，鹿島出席）
12日　図書館運営委員会――昭和49年度図書館予算要求に関して審議――
14日　白山連絡会
16日　蔵書照合調査終了（分館）
18日　分館開館
20日　江下賀子，橋本良重（白山勤務）退職
23日　図書館運営委員懇談会――昭和49年度図書費について審議――
30日　佐藤美和子（白山勤務）退職
分館雑誌所蔵目録完成
31日　蔵書目録第一巻発刊
4月1日　新入職員で３人が図書館勤務となる。黒澤透・中川圭子・久保田敏子(白山)
1～4日　応用物理学会総会に分館を使用
5日　白山連絡会
新入生教育，図書館利用説明（分館）
15日　新入職員，高橋裕美子，図書館勤務となる。
30日　伊藤敏子（白山勤務）退職

編集後記

四号をおとどけして，私たち編集委員の任期を終ります。一年を振り返ると，不慣れのために，発刊の遅れや不手際もありました。紙面をかりてお詫びいたします。又，終始助言をいただいた諸氏にお礼申し上げます。

（鈴木，江下，藤野，小島）

東洋大学図書館ニュース　KOΣMOΣ　Vol. 8, No. 4（通巻25号）1974年４月30日発行　編集：図書館ニュース編集委員会，発行人：大島建彦，発行所：東洋大学図書館　東京都文京区白山５丁目28番20号　Tel（945）7314番